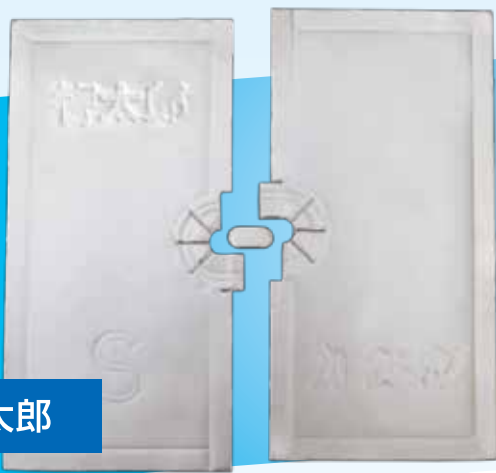


Toho 配管貫通部埋め戻し

管太郎構法

特許
出願中

アルミ箔複合製のパッド材「管太郎」(国土交通大臣 不燃材料NM-2476認定)と
止水特殊 グラウトモルタル「管グラウト」を組合せた配管貫通部埋め戻しの新構法



管太郎



管グラウト

POINT!

配管貫通部の埋め戻し工事を省力化!
配管貫通部埋め戻しの止水効果とトータルコストの削減!
防火区画貫通部で火を遮断!※2

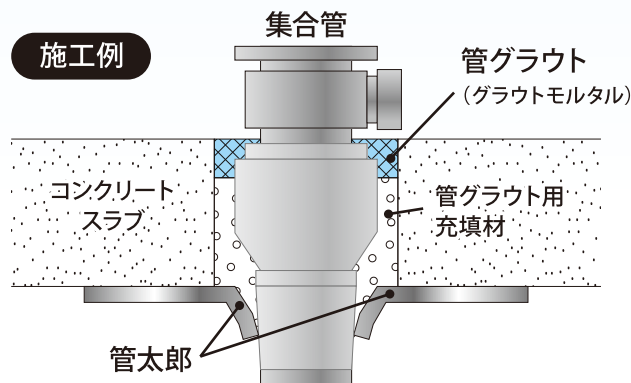
特長

- 配管貫通部の埋め戻しと同時に埋め戻し部の止水に抜群の効果を発揮します。※3
- 埋め戻し工事の不備・欠陥を解決し、安定した品質を実現します。
- 埋め戻し工事後の塗布防水工程を省略でき、トータルコストを削減できます。※3
- 管グラウト用充填材(ロックウール)を併用することで、従来のモルタル充填構法に比べ躯体コンクリートに伝わる振動を減らす効果があります(クッション効果)。

管太郎構法 施工要領

- ①塞ぐべき孔の大きさと管太郎のサイズを決定します。
- ②管太郎の剥離紙の片側を剥がし、V型の切込みに合わせてパイプに押し付け、天井部分と直角になるように貼り合わせます。
- ③管グラウト用充填材をスラブ天端から30mm下がったところで充填します。
- ④管グラウトをパックの中で十分混ぜ合わせます。
- ⑤管グラウトのパックの切り込み部から注入するスペースに合わせてパックを切り、切り口から管グラウトをスラブ天端まで注入して下さい。

施工例



施工上の注意

- ①管太郎接着面の油分、水分、汚れ等をよく拭き取ってから施工して下さい。
- ②管太郎は接着強度が非常に強く、貼り直しは破損の恐れがありますので、素早く一度で貼りきって下さい。
- ③管グラウト注入時は気温5℃以上を維持し、凍結防止等適切な養生を行って下さい。
- ④管グラウトは練り混ぜ後30分以内に使用して下さい。

防火区画関連法規

建築基準法施行令第112条15項の要旨:
給水管、配電管その他の管が耐火構造等の防火区画を貫通する場合には、当該管と耐火構造等の防火区画とのすき間をモルタルその他の不燃材料で埋めなければならない。

※2:一部関連法規による使用制限もありますので、所轄消防機関へご確認下さい。 ※3:どのような場合でも水が漏れないことを保証するものではありません。

総販売元



建築の省力化をめざします。
株式会社 東邦建材

代理店